2026年7月7日 『朝礼時講話～連絡事項』

(1)講話【まっすぐな木、まっすぐ使え　曲がった木、曲がったまま生かせ】

今日は七夕ですね。現代の日本では、短冊に願い事を書き記し、**物事に真摯に励むことの大切さや願いを込める文化的行事**として浸透しています。皆さんは、今、どんな願い事を思い起こしているでしょうか。

私は大学1年生だった頃、バスケ部に所属していました。自分で言うのも何なんですが、ある程度バスケが上手いと慢心していた頃でして、上級生を差し置いて試合に出ている事で大きな勘違いをしていました。そして、バスケに対する姿勢も周囲よりしっかりできていると思っていた私は、自分の思うように周囲が動いてくれないと厳しい態度であたり、非常に尖がっていて、先輩たちもおもしろくないと思っていたと想像します。

当時、関西の3部リーグに所属していたうちのチームでしたが、その時の願いは、「先輩たちの代で3部残留」と掲げたものでした。しかし、願いとは裏腹に、秋のリーグ戦は連敗が続き、4部降格を掛けた最終戦に臨む事になりました。

最終戦、スタメンで出ていた私は、試合開始から好調でした。シュートもおもしろいように決まる、ディフェンスでも相手を抑えられる。シーソーゲームではありましたが、最終戦、試合を楽しんでいました。試合は大詰め、残り22秒、1点差で勝っていた流れの中で、ドリブル中だった私はファウルをもらいます。当時のルールでは、1&1スローというものがあり、1本目のフリースローが入れば次のもう1本が打てるというものでした。2本決めれば3点差。相手も相当追い込まれる事になる。でも、もし仮にシュート落としたら…そう思った瞬間から手が震え始めました。この試合で初めて〝怖い〟という感覚が芽生えてしまいます。そのような精神状態で打ったシュートは案の定、リングに嫌われ相手ボールになってしまいました。ボールを持った相手はエースでキャプテンの4年生。体も大きく、私よりも経験値がある。私は自分で犯したミスを取り返そうと思いディフェンスにつきます。何とかくらいついていたのですが、上手いドリブルで逆をつかれてしまいます。それでも必死に追いかけてボールに手を掛けたつもりでしたが、相手のパワーに引っ張られ、ボールから手を離さなかった私はそのまま相手にタックルした形となり2人とも倒れてしまいます。その行為が「悪質な危険プレイ」と見なされ、相手にフリースロー2本を献上。さらにはそのフリースロー後は、相手ボールから始まるという最悪の状況になってしまったのです。〝**外してくれ…**〟という思いとは逆に、相手エースは落ち着いて2本を沈めて逆転されてしまいます。そして残り15秒、パスを巧みに回され、そのまま試合終了。

〝**自分のせいで負けた…**〟その思いに押しつぶされそうになっていました。その後もうなだれている私の所に先輩の1人がツカツカやってきて、こう言い放ちます。

「お前のせいで試合ぶち壊しや！4回生はこの試合で終わりやねんぞ！お前のせいで降格や！」

普段から尖がっていた自分をおもしろくないと思っていた先輩のここぞとばかりの罵声だとわかりました。

〝**もうバスケはいい…辞めよう**〟そう強く思いました。そんな私の傍に、キャプテンがきて声を掛けます。

「今日はめっちゃおもろい試合やったなぁ。お前のおかげでしびれる試合になったぞ。ありがとうな。お前は尖った所あるけどな、そのまま行け。そのままんでええからな。ただ感情のコントロールだけ気いつけや。」

その言葉で、私は結局4年間バスケを続ける事ができました。結果的な「願い」は叶わなかったけれど、先輩に願われたその言葉で大事なものを賜ったのです。願いを持つ事は、大切なものに出会うご縁かも知れませんね。

【まっすぐな木 まっすぐ使え　曲がった木 曲がったまま生かせ　…　荒良寛（禅宗のお坊さん）】

(2) 連絡事項 【講話+① ＝ 理事長】

① 事業計画にあるように、今月より機能訓練開始に向けて動き出します。看護師Sさんを中心に、計画書作成と実施を数名から開始します。7月17日には先進施設を視察予定です。それも含めて、「日常の生活動作自体＝機能訓練」という考え方で進めていく方針ですが、日常のケース記録の仕方など、細かい点についても確定していません。それについても、今月は試験月間であるため、取り組んでみてどんな不具合があるか？どうすれば連携して成果を出せるかなど点検する月として取り組んでいきます。今後のロードマップを別紙の通り回覧しますので、目を通してください。